

令和6年12月3日

一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
会長 上田 勝朗 殿

水環境保全助成事業実施報告書（総括表）

団体名称	松島湾アマモ場再生会議
代表者	桑原茂
所在地	〒985-0831 宮城県多賀城市笠神3-1-39
	電話番号 090-2973-8460 hctap621@ybb.ne.jp
事業内容 (概要、成果等)	別添報告書のとおり 2012年の発足以降、アマモ場を増やし生物多様性と豊かな故郷の海を取り戻す活動を継続しているが、近年の異常な海水温の上昇に伴い松島湾内でも生息魚類の変移や、それに伴う海草、海藻類の食害、磯焼け、枯死などが顕著になってきている。 アマモは光合成により酸素を海中に供給するとともに海中に存在する森林のように海水温度の上昇を穏やかにして生物のゆりかごとして存在するものの、水深が浅く夏の高温が顕著に影響する松島湾にあつてその役割は特に大きなものがある。 大阪府阪南市にて実績のあるヤシ殻のマットを100枚導入し、上記の動機づけにより参加者には異常気象を身近な問題として感じてもらいながら地球市民として海洋環境の負荷軽減への一助となる具体的な活動に参加してもらう機会となったものと思う。 なお、マットは塩竈市浦戸桂島「38° 20'11.4"N 141° 05'16.9"E」の海底に70枚（約1ha）を敷設した。発芽などの経過観察を継続実施する。
事業実施期間（日時）	令和6年11月9日（土）
事業実施場所	宮城県塩竈市北浜緑地護岸・くろしおマリーナ・松島湾内
参加人数	92人（内訳別紙のとおり）
経過	2024年8月4日令和6年度総会 8月5日夏休み親子行事の実施 8月29日事業打ち合わせ 9月5日ヤシ殻マットサンプルと事業の打ち合わせ 9月25日アマモ定着資材（研究サンプル導入）会議 10月5日関係機関（漁協など）協議、一般募集開始 10月23日関係機関web会議、会員協議 11月8日事前準備 11月9日事業実施当日

会計報告

費目	内容	金額
[1]謝金	海中作業ダイバー謝金	42,000 円
[2]印刷製本費	チラシ 300 枚	42790 円
	小学生以下参加記念品（トートバッグ） 製作 50 個	55000 円
[3]借料・損料	船舶借上げ（アマモの種撒布作業船・参加者乗船）	25000 円 × 3 艘 = 75000 円
	アマモ種子運搬船舶代（桂島⇄塩竈）	20,000 円
[4]消耗品・材料費	アマモの種子海洋撒布用マット 100 枚購入 200m × 50m = 1 ha	770,000 円
[5]事務管理費	傷害保険（東京海上日動火災保険）	2960 円
合計		1,007,750 円

2024年度 水環境保全助成事業 実施報告書

団体名 : 松島湾アマモ場再生会議

実施日 : 2024年度11月9日

実施場所 : 宮城県塩竈市北浜緑地護岸

くろしおマリーナ

松島湾内

参加人数: 92人

(内訳)

松島湾アマモ場再生会議会員 11人

協力団体52人

(セブンイレブン記念財団37人・仙台ECO海洋動物専門学校生徒15人)

一般参加 21人

マスコミ等 8人



アマモの種を埋め込んだ粘土を海に投げ入れる参加者

アマモ再生豊かな海へ

塩釜港と桂島で種まき

東日本大震災の津波で激減した松島湾の海草「アマモ」の再生に取り組む松島湾アマモ場再生会議(塩釜市)は、種まきを塩釜港などで実施した。約80人が参加し、豊かな海の再生の願いを込めた。

参加者は採取したアマモの種を手作業で選別した後、土と混ぜてヤシガラでできた海中育成用のシートに挟み込んだり、粘土に埋め込んだりして、塩釜港と浦戸諸島・桂島に散布した。

今年初めて、一部の種を土に混ぜ込む際に、アマモの生育を助けるとされる鉄分を含んだ粒子と液体を加えたものを試験的に作製。育ち具合を比較して今後の活動に役立てる。

参加した利府二小一年の大場溪登さん(7)は「種を選ぶのは難しかったけど、楽しかった。海がきれいになればうれしいと話した。再生会議の桑原茂会長は「アマモは海のゆりかごで、『ブルーカーボン』と言われる二酸化炭素吸収源にもなる。小さな活動かもしれないが、海洋環境を良くする活動が次の世代にも伝わればいい」と語った。種まきは9日であった。

▲11/19日付 河北新報

イベントスケジュール等

11/8日前日準備

14:30 スタッフ集合

アマモマット連結 10枚×10列

アマモの種移送(桂島→くろしおマリーナ)

アマモの種の予備洗浄

17:00 解散

11/9日当日

6:30 スタッフ・参加者駐車場看板設置

7:00 スタッフ集合

のぼり旗・音響・マット並べ・受付準備・駐車場誘導

8:30 受付開始

9:00 開会式

アマモの環境保全の役割などの座学

9:45 アマモの種の選別

寒天粘土へ種の仕込み

10:15 アマモマットへの種の移植と仕込み

11:00 参加者による「北浜緑地護岸へのアマモ種の移植」

船に分散乗船して粘土、マット(30枚)を敷設→全ページの河北新報社の記事

11:30 閉会式

子どもたちへのアマモの種移植活動の表彰と記念品授与(トートバッグ)

12:30 (以降会員、宮城県水産業振興課職員同行)

アマモマット70枚を船に積載し浦戸桂島へ移動

マット敷設・ダイバーによる海底固定作業・ドローンによる撮影)

14:00 帰港、片付け 解散



開会式及び当日の流れの説明



6月摘み取り海中で培養し桂島から移動したアマモの種

種だけを選び分ける作業
中には発芽前のひげをのばした種も→





アマモの種の選別作業
米粒より小さな種のみを選び分ける。



50×50cmの椰子殻マットを10個連結し
10列。その中に培養土、アマモの種、
発芽促進の鉄粉を混ぜたものを挟み
込む作業。





閉会式と子ども参加者への環境活動参加の表彰式



閉会式終了後
アマモマット70枚を
浦戸桂島のドナーサイト周辺に敷設



その後。発芽の状態は1月ごとにダイバー作業、海中撮影にて経過を観察する。

